

## 白雲

紫 圭子

真夜中

窓をあけてベランダにでる  
頭上に白い雲が大きく楕円にひろがっていた  
空は群青に冴え渡って  
白い雲は  
かたちをくずしながら呼吸している

（宇宙からきた巨大雪玉が大気に触れて白雲に変化し雨をふらせる  
と言った科学者がいた

真夜中の白雲

眺める眼の淵で量感を増し  
雲の縁はきらきらとゆれて  
なにかが吹雪いた  
はなびら  
雲に宿るいのち  
の  
水分だった

真昼

境内で満開の桜を見上げたとき  
鈴の音がひびいてきた  
鈴のなかの桜の昼が呼ばれて  
わたくしの鳩尾をゆすった

そっと

足裏のはなびらを踏みしめて  
真夜中

の  
あの白雲を追っていた